

## 『弱さが自慢』 コリント人への手紙第二 12章1～10節 2018.4.29(聖日礼拝説教より)

『からだの中で比較的弱いと見られる器官が、かえってなくてはならない(Ⅰコリント 12:22)』

『わたしの力は、弱さのうちに完全に現れる(Ⅱコリント 12:9)』

神の御心と導き方は、それぞれ皆違って個別的…なので、誰かと比べることなく、その導きを日々信頼して歩めば良い！

**①教会は神に選ばれたエリート集団**(Ⅰコリント1:26～29)…イエスは『わたしがあなたがたを選んだ』と言われたが、その選びの基準は世と違い、『愚かな者、弱い者、取るに足りないもの、見下されている者、無に等しい者(Ⅰコリント 1:27～28)』。ダメな人の集まりなのではなく、絶対者であるお方の前に謙ることを知り、『弱さ』こそ、神の恵みに生きる唯一の秘訣だと知っている者の集まりだと言うこと。自分の罪・欠け・弱さを知るクリスチャンは、本当に畏れるべきお方、信頼すべきお方を知る者たちである！

**②弱さを通して見えるもの**(Ⅱコリント 12:9～10)…パウロは、どんな試練にも負けない強い人に見える(Ⅱコリント 11:21～27)が、唯一の自慢は自分の弱さだという(12:5)！逆に言えば、その鉄人のような強さの秘訣は徹底的な弱さの自覚にあると！そして高慢にならないように与えられた「肉体のとげによる激しい痛み(12:7)」を通して、圧倒的な主の臨在と力を思い知ることになる！ヨハネ9章で、生まれつきの盲人を見た弟子たちは、この障害の原因を問うが、イエスは、その目的を告げた！『この人の目が見えないのは、神のわざ(栄光)が現されるため(9:3)』。この盲人は目が開かれた後、仰ぐべきお方に対する信仰の目が開かれ、神に栄光をお返しする人生とされた！『キリストの力は、弱さのうちに完全に現れる(12:9)』と言われた通り！主はまた、「からだの中で比較的弱いと見られる器官が、かえってなくてはならない(Ⅰコリント 12:22)」と言われた。弱い存在こそ世に必要で価値のある大切な存在だと！この世は病や障害や弱さを嫌う。しかし主は、競争社会の今、『ナンバー1』ではなく『オンリー1』としての価値を見るように問われる。弱さを否定するのでもなく、単に認めるだけでもなく、その弱さを尊び、大切にす社会こそ、神の栄光が現された社会！

★悪が支配する世の価値観は「弱さ」と向き合う時にこそ明らかになる！しかし神に問い、聴き従う人は、「弱さ」を尊び、寄り添い、互いに愛する力、思いやる心、優しさが広がるのを見る！★今週、この弱さは何故？どうして？と原因を問うより、その目的を神に問い、弱さを通して現されるその力と豊かな慰めを、誰かと分かち合いたい！